

## 「日建設計 XRスタジオ」訪問

月報委員会  
委員長 深谷昇

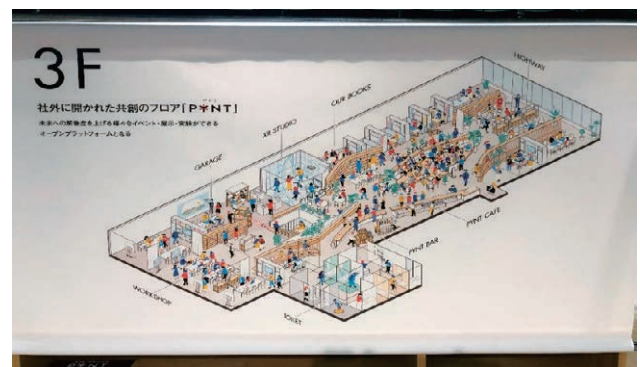
6月の暑い日に日建設計を訪問した。広い歩道にメタセコイヤ並木が2列に並んで、日陰を作っている。待ち合わせ時間に成るまで本西常務理事と歩道のベンチに座って涼んでいた。日建設計は日本最大の建築士集団の会社であり、名の有る建築物の設計は日建設計が担っていることが多い。今回の訪問の目的は日建設計社内の壁画に木材会館が描かれたので見に行くことと、XRスタジオの見学の2点だ。

待ち合わせ時間と成り、2階の受付で本日案内してくれる竹内聡さんと合流する。竹内さんは木材会館建築担当者の一人だ。日建設計は今年1階～4階を大改修している。メインはPYNTと名付けられた3階フロア。ピンとくる、ピントが合うから名付けられた。3階の中央の床に穴を開けてオープンな階段を取り付けて3階フロアに行く。外部に開かれたフロアであることが良く分かる。3階に上がると木のカウンターと常駐するバリスタ、社内社外を問わずコーヒーを飲みながら話をする事が目的なのだろう。コロナ禍によりオフィス不要論が叫ばれ、会社に来なくなった人を会社に来させるためのスペース。会社に来てプロジェクトの問題点を他の分野の人の知恵を借りて創っていく場を提供している。ここは共創がテーマと竹内さんが話してくれた。

まず初めに壁画を見に行く。PYNTを抜けて社員しか入れないスペースにスマホをかざして入った。エレベーターホールに壁画があった。壁画はイラストレーションスタジオ所属の山田雅明さんとトム ガステルさんに説明して貰った。日建設計の数ある代表作の中から選抜し、亀井忠夫会長からの御指名で木材会館を描きましたと山田さんに説明された。木材会館の隣には京橋エドグラン、東京タワー、東京スカイツリー®、みなとみらい、モード学園スパイラルタワーズなど、東京、横浜、名古屋、大阪の有名な建築物が並んでいる。いかに木材会館が画期的な建築なのかを再確認する。木材会館を書いたのはトムさん。精密に描かれた鉛筆画やボールペン画も見せてもらう。お土産に木の皮に印刷された木材会館や建築前に描いた木材会館のパスを戴いた。



日建設計 外部ガラス



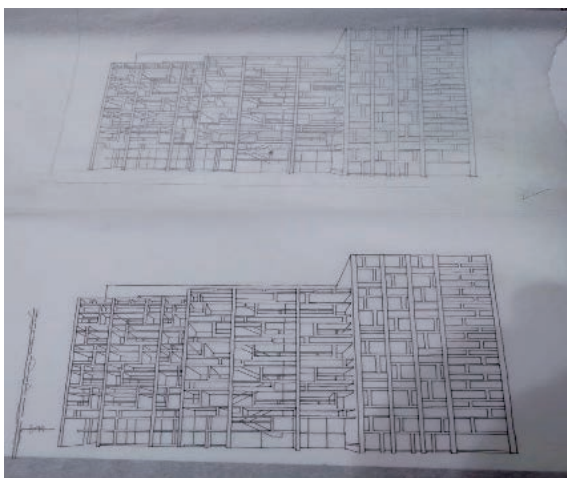
3F案内図 PYNT (ピント)フロア



エレベーターホールに描かれた壁画



トムさん



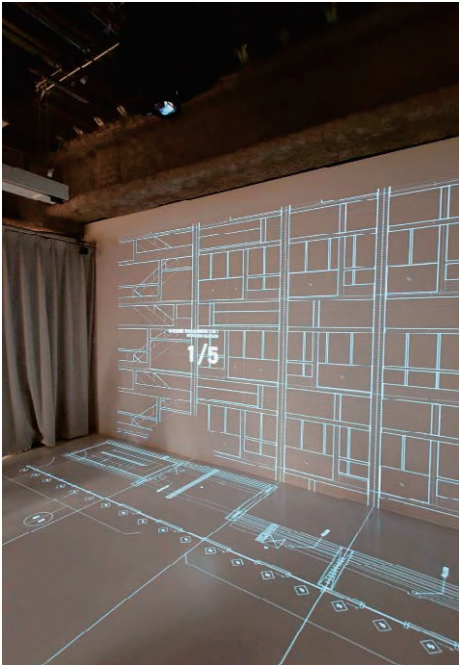
鉛筆画・ボールペン画



木の皮に印刷された木材会館

次は竹内さんに誘導してもらいPYNT内のXRスタジオに行く。佐々木大輔様に説明を受けるXRスタジオは3台のプロジェクトンとVR、AR、MRを組み合わせて空間を展示する。ヤード、メートル、尺、寸、実際の長さを体感する場。日建設計のプロジェクトを実寸で投影する事が出来る。最初に体感させていただいたのが渋谷スクランブルスクエア屋上展望デッキ「SHIBUYA SKY」。ガラスの手摺が実際の高さで映し出され、その先に東京の夜景が投影されていた。「この景色は大人気なんですよ」と見せてくれた。

次は木材会館のデッキ。桧の壁や浮造りの壁を映し出している。図面の線に写真を貼り付けている為桧の色や節までいつもの木材会館と全く変わらない。床にはデッキの桧の床が映し出され、今まさにデッキの上に立っているようだった。実際の寸法で映し出されているので床の桧の寸法迄精密に測れる。設計士がお客様とイメージを共有するのによく使われるとのこと。次に映し出されたPYNT(3階フロア)、<sup>キヤド</sup>ゴーグルをつけて歩く。3DCADで書かれた空間に入り歩き廻ることができる。手に持ったボタンを押せば狙った場所に瞬間移動することもできる。



木材会館ファザード



木材会館デッキ

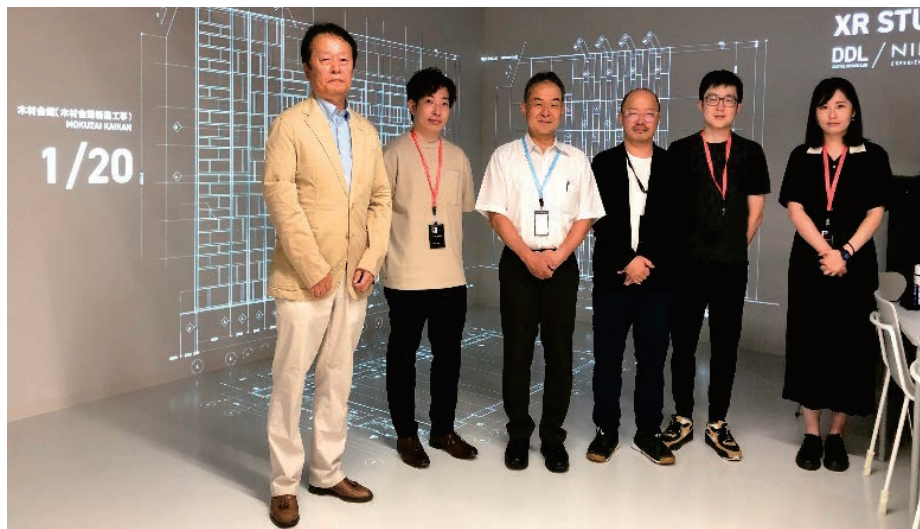
そのうち映像もホログラムとなり、もっと立体的な映像空間にお客様と設計士が入り、空間に絵を描きながら建物が設計される時代がすぐそこに来そうだ。



PYNT (ピント) フロアを歩く本西さん



瞬間移動する本西さん



左から本西さん、戸田勇登様、深谷、竹内聡様、佐々木大輔様、銭イーエン様